

2025年7月1日
87号

かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社日立製作所ひたちなか総合病院
〒312-0057
ひたちなか市石川町20番1
TEL 029(354)5111
発行人 渡辺 明宏
編集 広報委員会
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

ごあいさつ — 地域を護る病院として —



院長 吉井 慎一

2025年に入ってもロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ地区への攻撃は終結の目途も立っておらず、トランプ政権による自国中心主義の影響もさらに強くなりそうです。日本でも、減税政党が躍進し、一部の国民の財務省攻撃が強くなっています。マスコミではコメの価格高騰が連日報道されていますが、より重要な課題が山積している状況を、皆様はどのように感じていますでしょうか。

医療を取り巻く環境も、昨年度から厳しさが加速しています。2026年4月の診療報酬改定に向けて、2024年度の病院・診療所などの経営状況調査が行われました。物価の上昇に、診療報酬の上昇が追い付いておらず、多くの医療機関が収益減となり、特に公立・公的病院の多くが赤字と言われています。医療は他の業種と異なり、収入のほぼすべては国で定めた公定価格で、自由に入院料や手術料を設定できません。病院団体や医師会などは、厚労省に対して診療報酬の引上げを要求しています。一方、政府（というより財務省）は、医療含めた社会保障費を4兆円下げることが目標にしています。現在、一部の薬剤の保険診療からの除外（湿布薬、いわゆる感冒薬、その他、医師の

処方なく購入できる薬剤の一部）、高額医療補助の限度額の引き上げが検討されましたが、医師会や患者団体の反対もあり、成立の目途は立っていません。

少子高齢化が加速する日本では、医療費削減は誰が必要を感じていることです。高齢者が増加すれば、疾病も増加し、医療費が自然増加するという意見も多くありますが、このままでは国民皆保険の維持は困難になります。国や医療機関、国民、さらに製薬業界がそれぞれ協力して、将来あるべき方向性を見出さなければ、医療機関の急激な減少、薬品の不足が加速して、保険はあるけど医療機関を受診できない人が増加することも予測されます。今後は、健康寿命を延ばすこと、病気そのものを予防する（予防医療）ことが重要となっており、生活習慣病やがん検診の充実、健康診断未受診者の大幅減少が重要です。地域自治体や保険者（国民健康保険、社会健康保険）と医療機関が協力して、病気の発症や重症化を防ぐ情報共有、保健指導も必要です。

当院は「地域を護る病院」として、地域の病院、診療所、介護施設とこれまで以上に連携していきます。また、当院の急性期病院としての役割、早期退院へのご理解をお願いします。医療経営はますます厳しくなりますが、日立製作所の病院として、「社会価値」「経済価値」「環境価値」を常に意識し、職員一丸となって地域医療に貢献する気持ちです。今年度も引き続き皆様のご理解・ご協力よろしくお願いします。

ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日



放射線治療センター

2023年10月より、ひたちなか総合病院放射線治療センターに配属となった茂木厚と申します。よろしくお願いします。

当センターでは、常勤の放射線治療専門医が2名（茂木、三橋）在籍しており、院内、院外からの放射線治療の依頼に常時対応できる体制を敷いています。また、高精度放射線治療を施行するうえで欠かせない医学物理士、放射線品質管理士がそれぞれ2名、高度な位置照合や実際の照射指示など照射装置を操作する経験豊富な診療放射線技師が2名、がん放射線療法看護認定看護師が1名在籍しており、受付や医療クラークも含め、全スタッフによるサポートも充実しています。

2025年5月現在、治療装置の入れ替え作業を行っており、現在当センターでの放射線治療は休止中ではありますが、2025年8月には入れ替え作業も完了し、新装置が稼働します。新装置は、世界的に高いシェアを誇るElecta社の最新ライナックVersaHDです。本装置は高性能との定評が高く、高精度放射線治療である強度変調放射線治療（IMRT）や定位放射線治療（SRS/SBRT）をこれまで以上に積極的に提供してゆく予定です。

これまで、水戸市、ひたちなか市、那珂市や日立市周辺より多数の患者さんをご紹介いただき、放射線治療を行ってまいりました。今後も引き続き、患者さんにとって最善な治療を迅速に提供してまいる所存です。治療適応の相談も、ひたちなか総合病院地域医療連携室を通じて対応いたしますのでいつでもお問い合わせください。



Electa社の最新ライナックVersaHD



放射線治療専門医

左：三橋 紀夫医師、右：茂木 厚医師



放射線治療専門医と専門スタッフ

患者総合支援センター 地域医療連携室

患者総合支援センター 地域医療連携室では、現在看護師5名・事務員2名の計7名が勤務しています。私たちの業務は、かかりつけ医である地域の先生方や福祉関連の方と連携を図り、良質な医療を提供できるように橋渡しすることです。それが地域医療に貢献していくことと考えています。

また、患者さん一人ひとりに最適な医療サービスが提供できるよう「顔の見える連携」を心がけており、地域医療を支える皆様から信頼される部門をめざしていきたくと思っています。

今後ご指導を承りながら成長できますよう一同頑張りますのでよろしくお願い致します。



地域医療連携室スタッフ

地域の先生紹介

ひたちなか記念クリニック

院長の私は、1994年にひたちなか市に引越、近隣病院に勤務し1995年に開業いたしました。患者さんのために思い、「明るい雰囲気」をモットーにしています。

専門診療科は一般内科（特に循環器内科）、皮膚科です。内科疾患、皮膚疾患でお困りの際は、是非当院にご連絡下さい。やさしさではどこにも負けない医院作りを考えており、スタッフと患者さんの笑い声が、いつも絶えません。

先日、ある年配の女性と妻と3人で、フランス料理を食べに行きました。店には10人ほどのお客さんがいました。そこでは、誰も会話をしていない静かな時間が流れていました。同席した女性が、「大岡先生はご趣味は何ですか？」とおっしゃいました。なんと答えようかと考えていると、私の妻が「勉強です」と答えました。店内はさらに静まり返ってしまいました。



大岡 正志院長



医療連携に関するお問い合わせは地域医療連携室へ

8:15~16:30（月曜日～金曜日）

TEL 029-354-5202（直通）

FAX 029-354-5220（直通）

前立腺肥大症の症状でお困りの患者さんへ

当院では、前立腺肥大症の手術に伴う身体的負担を軽減するため、低侵襲な最新医療機器を2台導入しました。

手術をおすすめしたい方

1. 薬物療法であまり効果がでない患者さん 2. 従来の手術療法が困難な**高リスク**^{※1}患者さんや**高齢**の患者さん

※1：「全身状態不良による高合併症リスクの方」「身体機能低下リスクが高い方」等が該当します。
最終的には医師の診察によって判断します。

手技及び導入機器の紹介

■経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）

内視鏡の先端から**ホルミウムレーザー**を照射し、肥大した患部を剥離します。

本装置では「尿路結石症」の治療も実施しています。

〈メリット〉

- ・残存する前立腺が少なく、**再発の可能性が低い**
- ・**出血が少ない**
- ・入院期間：4～7日程度

注）入院期間は症状によって異なります。



Lumenis
Pulse™ 120H

起こり得る副作用（HoLEP・WAVE）

- ✓排尿障害 ✓血尿 ✓頻尿 ✓尿意切迫 ✓血精液症（精液に血が混じること） etc.

■経尿道的水蒸気治療Rezum（WAVE）

水蒸気を噴霧し、**水蒸気の熱**を利用して治療する新しい治療法です。

〈メリット〉

- ・**出血がほとんどない**
- ・手術時間が**10分程度と短い**
- ・**身体への負担が少ない**
- ・入院期間：**0～2日程度**



Rezum™



医療機器メーカー
「Boston Scientific」のHP

ご不明な点がございましたら「ひたちなか総合病院外来Cブロック・泌尿器科外来」へお問い合わせください。
株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 TEL：029-354-5111（代表）

見直したい水分摂取の仕方

保健師 市村 彩香

汗ばむことが多くなり、熱中症が心配な季節になりました。昨年5～9月の熱中症による国内の救急搬送者数は約9万7,600人と2008年以降最多であり、死亡者数は約2,000人となりました。日頃から危機感を持ち、予防を心がけたいものです。

熱中症対策として、こまめな水分摂取が大切であることは周知の事実かもしれません。しかし、健診者の方々に1日どれ位の水分を摂っているか伺うと、「1Lも摂らない」という回答をいただくことは少なくありません。

そこで、今回は「水分摂取」について見直す機会にしたいと思います。

1. 1日の水分摂取量の目安

1日1.2L以上を心掛けましょう（体重や年齢によって個人差あり）。また、3食バランスよく摂りましょう。食事は塩分を含むので、単に水を飲むだけよりも、体内への水分の吸収率がアップします。

2. 水分摂取のタイミング

就寝前、起床時、食事中、スポーツ中及びその前後、入浴の前後、喉が渴いた時など。1回につきコップ1杯程度（200ml）が目安です。1度にたくさんの水分を摂る必要はありません。回数を分けて摂ることで、過剰に排泄されることなく体内に蓄えられます。



3. 適した飲料

水がお勧めです。水は、ノンカロリーかつ手軽です。注意したいのは、コーヒーや紅茶、緑茶、エナジードリンクなどのカフェインを含む飲料、そしてアルコールです。利尿作用があるため、尿量が増えて脱水を促します。飲酒の際は、同量以上の水を摂りましょう。その他、ジュースなどの甘い飲料は、体重増加や糖尿病などに繋がるので、摂りすぎには注意が必要です。

十分な水分摂取の効果は、脱水予防のみに留まりません。便秘・むくみの解消、体重管理、肌の潤いを保つなど、健康上多くの利点があります。

シンプルな行為で健康度をアップさせられるなんて、魅力的ですね。好きなボトルやマグカップを使って、誰かとお話しを楽しみながらいただくのもよいですね。

◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆

診療科	氏 名	異 動 日
総合内科	阿久津 開	退職（2025. 6. 30）
	石 田 真知子	採用（2025. 7. 1）
	桐 花 玲 奈	採用（2025. 7. 1）
小 児 科	児 玉 達 弘	採用（2025. 7. 1）
神経内科	塚 田 亮 羽	退職（2025. 6. 30）
	本 多 美 文	採用（2025. 7. 1）
消化器内科	安 東 敬 仁	退職（2025. 6. 30）